

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ： 報告数 84件、前月比16.8と増加しています。熊本(報告数43、定点あたり1.7)、八代(同17、同2.4)、人吉(同8、同1.6)からの報告です。これから発生動向に注意が必要です。

小児科定点

(全体傾向)

報告総数4,687件(前月比2.1、前年比0.6)でした。前月比で増加したその多くは、感染性胃腸炎(前月比3.3)と考えられます。ただ、前年比は0.5と半数の報告です。その他増加の目立つものは、RSウイルス感染症(前月比1.9)とA群溶レン菌咽頭炎(同1.4)です。いずれも季節性の高い疾患でありA群溶レン菌咽頭炎の報告数が多いことを除けば、推移としては例年同様です。流行性耳下腺炎と水痘は、三桁の報告数が一年間を通してありました。一方で前年より続いていた伝染性紅斑は、夏以降漸減し今後終息に向かうと考えられます。インフルエンザの報告数は5から84件と増加していますが、昨年比は0.3でした。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症：報告数366件(前月比1.9、前年比1.0)と例年と同様の増加です。発生の地域差が大きく、宇城58件(定点あたり19.3)、八代70件(同17.5)、天草49件(同12.3)、熊本は131件(同8.2)の一方で、山鹿・阿蘇からの報告はありませんでした。
2. 咽頭結膜熱： 報告数52件(前月比1.9、前年比0.3)です。今年は6月をピークとして漸減していましたが、今月はやや増加し8月並の報告数でした、ここ数年は必ずしも夏の疾患とは言えない推移を呈しています。菊池(定点あたり4.3)に多く、年齢も1歳を中心として、幅広く報告があります。
3. A群溶連菌咽頭炎： 報告数413件(前月比1.4、前年比1.4)です。推移としては例年同様ですが、8月以降は、ここ数年では最も多い報告が続いています。菊池66件(定点当たり16.5)、熊本206件(同12.9)、天草43件(同10.8)、人吉31件(同10.3)が多いようです。4～7歳を中心としています。
4. 感染性胃腸炎： 報告数2,552件(前月比3.3、前年比0.5)と例年並みの推移ですが、報告数としては例年の半数です。全県下より二桁から三桁の報告があります。有明531件(定点あたり106.2)、八代358件(同89.5)、山鹿155件(同77.5)、宇城218件(同72.7)が多いようです。阿蘇(定点あたり8.0)、御船(同14.0)を除けば、定点あたり40以上の報告が多いようです。ほぼ全年齢から報告があります。
5. 水痘： 報告数385件(前月比1.9、前年比0.7)と、推移・報告数ともに例年並です。菊池80件(定点あたり20.0)、山鹿22件(定点あたり11.0)、有明53件(同10.6)、天草35件(同8.8)、宇城24件(同8.0)からの報告が多く、御船(同0.3)・阿蘇(同0.5)・八代(同0.8)に少ないようです。地域的な偏向もあり、予防可能な疾患であることを考慮すれば、地域的な対策の検討が再度必要と考えます。

6. 手足口病： 報告数10件(前月比0.1、前年比0.8)と、数年ぶりの流行も終息したようです。推移は例年どおりです。天草9件(定点あたり2.3)、熊本1件(同0.1)のみの報告でした。
7. 伝染性紅斑： 報告数24件(前月比0.9、前年比0.1)です。7月に激減した以降は20～30の報告で推移しています。少数ですが、各地から報告されています。
8. 突発性発しん： 報告数188件(前月比1.4、前年比1.5)と、大きな動きはなく例年同様に推移しています。阿蘇・御船を除き県下から二桁(定点あたり3から5件)の報告があります。
9. 百日咳： 報告は3件(前月比1.5、前年比1.5)でした。報告された年齢は、6～11ヶ月1件と15～19歳の2件です。熊本2件と有明1件から報告されています。今年は、0～3件と昨年に比して少ない報告でした。
10. ヘルパンギーナ： 報告数19件(前月比0.4、前年比0.3)で、例年同様に減少しています。天草16件(定点あたり4.0)以外、殆ど流行は終息していると思われます。
11. 流行性耳下腺炎： 報告数324件(前月比1.2、前年比0.7)と、3月をピークとしてやや減少してきているとはいえ、300前後の報告が続いています。菊池61件(定点当たり15.3)、水俣24件(同12.0)、有明56件(同11.2)が多いようです。ほぼ全年齢から報告されています。水痘同様に予防可能な疾患であり再度積極的対策の早急な実施が必要と考えられます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありませんでした。
2. 流行性角結膜炎： 報告数73件(前月比2.1、前年同月1.5)と増加しています。地区別では熊本65件、菊池1件、有明6件、天草1件と前回まで多発していました。菊池で減少しています。年齢別では20～39歳で53%を占めていますが、40歳以上にも多く出ています。

STD定点

1. 性器クラミジア感染症： 報告数25件(前月比0.6、前年比0.8)でした。前月比、前年比ともかなり減少しています。男女別は、女性が13件とやや多く見られています。年齢別は、女性は15～24歳に8件と多く、男性では15～39歳に11件と多く見られています。地区別は、熊本が17件と圧倒的に多く、次いで、山鹿3件、菊池、御船、八代、有明、宇城に各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症： 報告数13件(前月比0.7、前年比0.4)でした。前月比、前年比とも減少しています。男女別は、女性が8件と多く見られました。年齢別は、女性で20～70歳以上、男性でも35～64歳と幅広く見られています。地区別は、熊本が10件と多く、次いで宇城2件、八代1件でした。

3. 尖圭コンジローマ： 報告数は4件(前月比ー、前年比0.7)でした。前月比では、前月が0件で増加、前年比では減少しています。男女別は男性が3件と多く見られました。年齢別は男性では15～19歳に1件、35～44歳に2件、女性では50～54歳に1件見られています。地区別は、熊本、宇城に各2件でした。
4. 淋菌感染症： 報告数は16件(前月比1.1、前年比4.0)でした。前月比、前年比とも増加しています。男女別は、男性に13件と多く見られています。年齢別は、男性は20～24歳に6件と多く、女性では15～19歳に1件、25～29歳に2件見られています。地区別は、熊本6件、次いで有明4件、宇城3件、御船2件、菊池1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
報告数90件(前月比0.9、前年同月比1.6)でした。58件(64%)が70歳以上でした。前年と比べ増加傾向が続いています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：
報告数5件(前月比1.0、前年同月比5.0)でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：
報告数1件(前月比+1、前年同月比+1)でした。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症：
報告数1件(前月比+1、前年同月比-)でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数3件(前月比+3、前年同月比3.0)でした。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数2件(前月比+2、前年同月比0.4)でした。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数34件(前月比1.3、前年同月比4.3)でした。前年と比べ著明な増加傾向が続いています。場所は熊本市保健所が13件、人吉保健所が13件でした。年齢は1～4歳が6件、5～9歳が15件、10～14歳が5件でした。
4. クラミジア肺炎： 報告数0件(前月比-1、前年同月比-3)でした。

届け出対象感染症

- 1類感染症： 報告はありませんでした。
- 2類感染症： 結核：52件
- 3類感染症： 細菌性赤痢：1件
- 4類感染症： つつが虫病：4件
日本紅斑熱：5件
レジオネラ症：1件
- 5類感染症(全数把握)： アメーバ赤痢：1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症：2件
後天性免疫不全症候群：3件
梅毒：3件